



JTUC-aomori

No.335

2017年11月10日

# れん ごう 青森

発行 日本労働組合総連合会  
青森県連合会(連合青森)  
発行人 山内裕幸 編集人 堀 史子  
青森市本町3丁目3の11  
青森県労働福祉会館内  
TEL (017)735-0551  
FAX (017)735-0553  
URL <http://aomori.jtuc-rengo.jp/>  
月1回発行 1部10円  
(組合員の購読料は会費の中に含む)



## 連合青森第16回定期大会

組織力・政策力・発信力に磨きをかけ、社会的信頼を高め、次の時代に連合運動をつなぐ！

連合青森第16回定期大会は『次の飛躍へ 確かな一步を』をスローガンに10月25日(水)13時から、青森県労働福祉会館で役員、代議員、特別代議員、傍聴者など約130名が出席し開催された。

主な議案として「2018～2019年度運動方針」「2018年度予算」等を確認したほか、第15期役員の選出をおこなった。

第1号議案「2018～2019年度運動方針」では「組織力、政策力、発信力に一層の磨きをかけ、社会からの信頼感を高め、すべての働く者のため、次の時代に連合運動をつなぐ」とした8項目を運

あいさつに立った内村隆志会長は、感謝の意を表した後、第48回衆議院解散総選挙、春季生活闘争、働き方改革、組織拡大・強化の4点について述べた。

まず22日投開票で行われた第48回衆議院解散総選挙について、「民進党解体、希望の党への合流など、大変混乱した闘いを強いられ、また政策的に相容れないとの判断を行う組織もあったことから一枚岩での取り組みになりきれない結果、安倍暴走政治にストップをかけるという願いを果たすことが出来なかった」「当面、政治構造が流動化する可能性もあり、政策を実現する面で支援政党

動の基軸に掲げ、一体感を持った運動の推進、次の飛躍に向けた地力を強化すると訴えている。

第4号議案「連合青森第15期役員の選出」では新副会長に三國宏行氏(自動車総連)、沢辺毅(JR総連)が就任し、他5名の新役員を含め、44名が選出された。

また第5号議案「役員表彰」では連合青森役員を10年以上就任され退任された方を表彰対象とし、15年6ヶ月務められた前副会長の木村剛氏(JR総連)が表彰された。

との関係のあり方や組織内外への発信のあり方など大変難しい課題が残された」と総括した。その上で今後、連合本部、構成組織の政治方針の議論を注視し、連合青森としても意見交換を進めるとした。また組織拡大・強化について「真の意味で労働者のための制度政策実現には政治の力と同様に組織の力も重要なってくる。労働条件や働き方の改善、職場内での課題解決には組合の有無が大きな意味を持つことを改めて認識し、一人でも多くの労働者を組合の傘の下で守る、そのための組織拡大・強化を粘り強く進めていく必要がある」と強調した。

来賓として県から青山祐治副知事、青森市から横内信満経済部次長、連合本部から井上久美枝総合男女平等局長、政党からは田名部定男民進党青森県連代表、三上武志社民党青森県連合代表、竹山美虎青森県民社協会事務局長の3名、また相馬寛人青森県労働者福祉協議会事務局長、川村数彦青森県退職者連合会長に参加を頂き、各々の立場から激励のあいさつを頂いた。

また今大会では公正で持続可能な社会の実現に向け、ITUC（国際労働組合総連合）が定める「ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）世界行動デー」に合わせ、参加者全員で「Decent Work for All!（すべての人にディーセントワークを！）」と唱和するアクションも行った。

続いて第1号から3号議案の提案に入り、その後の質疑応答では「民進党との今後の関わりについて現段階での判断」や「希望の党公認候補者を推薦した結果、野党統一の選挙とならず、落選に至ったことについて連合青森はどのように考えて

## 連合青森第15期役員

### 会長

内村 隆志（自治労青森県本部特別中央執行委員）

### 副会長

吉田 信（UAゼンセン青森県支部支部長）  
掛村 政則（自治労青森県本部中央執行委員長）  
長嶺 渉（青森県電力総連会長）  
関 竜一（JP労組東北地本青森連絡協議会議長）  
三國 宏行（自動車総連青森地方協議会議長）  
塩谷 進（情報労連青森県協議会議長）  
沢辺 毅（JR総連青森県協議会議長）  
小沢 環（交通労連青森県支部委員長）  
三上 雅仁（運輸労連青森県連合会執行委員長）

### 事務局長

山内 裕幸（運輸労連青森県連合会特別執行委員）



第15期役員



出席者全員で行われた  
「ディーセント・ワーク」  
アクション

いるのか」、また「今後の希望の党との向き合い方について」や、「来年10月の市議会議員選挙や再来年の統一地方選挙にむけて、連合の政治方針をよりスピード感をもって進めてほしい」など政治にかかわる質問・意見が多数出された。

大会最後には「連合青森は2019年に結成30周年を迎える。次の時代の連合運動を力強く切り拓くためにも、今からの2年間、足元をしっかりと固める期間とし、確立した方針のもと一丸となってすべての働く者のための労働運動を展開し、社会的役割と価値を次の時代へつないでいく」とした大会アピールを採択し、内村会長の音頭でガンバロー三唱を行い、盛会裡に終了した。

### 副事務局長

敦賀 仁（UAゼンセン青森県支部参与）  
大澤 祥宏（東青地協事務局長）  
鈴木パティ（三八地協事務局長）  
玉田 裕明（津軽地協事務局長）  
小坂 一志（上十三地協事務局長）  
秋田谷宗孝（西北五地協事務局長）  
眞壁 清（下北地協事務局長）

### 執行委員

小枝 忠（電機連合青森地域協議会議長）  
鈴木 久雄（基幹労連青森県本部委員長）  
永井 紀昭（全駐労青森地区本部執行委員長）  
坂内 利行（フード連合青森地区協議会副議長）  
菊池 浩正（私鉄青森県連合会執行委員）

越野 友児（紙パ連合青森県協議会議長）  
 津田 幸喜（全日本海員組合八戸支部支部長）  
 原木 猛（全水道青森県支部副執行委員長）  
 寺山 崇樹（国公総連青森県協議会会計監査）  
 成田 篤哉（森林労連青森県協議会副議長）  
 江良 實（全自交青森地方連合会書記長）  
 田村千代子（日教組青森県教職員組合高校教育部長）  
 阪井 博史（政労連青森県協議会議長）  
 岡山 貴栄（自治労連青森地方協議会執行委員長）  
 桂田 昭大（JEC連合青森地連事務局長）  
 戸室 久子（自治労青森県本部中央執行委員）  
 野坂 聰子（UAゼンセン青森県支部特別運営評議員）

三上 和子（運輸労連青森県連合会執行委員）  
 工藤まゆみ（JP労組西北五支部女性フォーラム幹事）

#### 特別執行委員

佐藤 久義（青年委員会事務局長）  
 角 久美子（女性委員会事務局長）  
 赤間 義典（専門部長）  
 堤 史子（専門部長）

#### 会計監査

柿崎 寿光（全労済労組青森支部執行委員長）  
 久慈 慶子（東北労金労組青森県支部書記次長）  
 三上 幸雄（JP労組青森地方支部支部長）

## 毎月5日は「連合の日」

連合では毎月5日を『連合の日』と設定し、組織活動の活性化をはかり運動の輪・信頼の輪を広げるべく各種取り組みを行うこととしている。

連合青森もこの本部方針を受け、『連合の日』について5日を中心に街頭行動を主として取り組み、連合青森として抱える課題の共有化、各産別・産業にある現状課題を県民に対し、広く訴えていくこととした。

今月の街頭行動は、長時間労働の是正や36協定の周知・適切な締結などを呼びかけ、ワーク・ライフ・バランスの実現と長時間労働是正に向けた

#### 2017年11月行動予定 11月10日現在

- 11月10日(金)18時 県労働福祉会館  
「東青地協第29回定期総会」
- 11月12日(日)10時 サンロード青森  
「第25回食・みどり・水のフェスティバル」
- 11月17日(金)13時 県労働福祉会館  
「青森県退職者連合第27回定期総会」
- 11月17日(金)18時 県労働福祉会館  
「連合青森カラオケ大会」
- 11月20日(月)17時 青森市ワシントンホテル  
「県経営者協会との懇談会」
- 11月22日(水)18時 弘前市 弘前パークホテル  
「津軽地協第29回定期総会」
- 11月22日(水)18時 五所川原市プラザマリュウ  
「西北五地協第29回定期総会」



実効ある法規制実現の後押しとなる様、世論喚起を行った。

- 11月25日(土)14時 八戸市三八労働福祉会館  
「三八地協第29回定期総会」
- 11月25日(土)14時 むつ市ホテルニューグリーン  
「下北地協第29回定期総会」
- 11月27日(月)15時 県労働福祉会館  
「第1回三役会議」

#### 2017年12月行動予定

- 12月6日(水)17時45分 県労働福祉会館  
「食みみ第4回実行委員会」
- 12月7日(木)13時30分 県労働福祉会館  
「第1回執行委員会」
- 12月8日(金)18時 十和田市上北教育会館  
「上十三地協第29回定期総会」
- 12月9日(土)16時 県労働福祉会館  
「民進党県連との第32回定期協議」

## 組織内議員通信

### 組織内議員から組合員へ 『今・想いを伝える』

十和田市議会議員 畑山 親弘 (出身組織：自治労)

#### «政治姿勢（基本姿勢）»

自治労は“一自治体 一議員”を実現しようという方針があります。私なりに「市政の民主化においては市政の主人公は住民であることから、自治体行政に精通している自治労組合員と組織運動により成し得る」と考えています。したがって私自身はこうしたもとで議会活動と市民活動をしている心算です。



#### «最近の気になっている課題»

最近、各市町村の人口がほとんどで減少しています。しかも高齢者率が30%を超え、国では地方創生交付金を出して人口減少に歯止めをかけようとしています。安倍総理も「農業を成長産業にする、大規模化する」あるいは、「輸出できる農業に」と言っていますが、これは農業の産業化であり、ほんの一部の農業者だけにものになるのではないでしょうか。

つまり、地方創生策は「絵に描いた餅」になるような感じがします。これまで農業、漁業、林業など当該地方の特色あるもので一定の人口を維持していましたが、ここ20数年の間で各地方は少子高齢化時代に突入しています。

大都市でも、地方都市でも暮らせるバランスのとれた社会づくりは、どうあるべきか。大切な課題であると考えています。私はこの課題に組織や市民の皆さんと共に、愚直に立ち向かっていく努力を続けていきたいと思います。

むつ市議会議員 斎藤 孝昭 (出身組織：電力総連)

#### «現在の活動・課題点»

開かれた議会を目的に、各議会は議会基本条例を制定し、自己研鑽と資質の向上に努め、地域の課題のみならず様々な市政の課題と市民の意見を的確に把握し、市民全体の福祉の向上と市政発展のため活動することを理念とするとしています。しかし基本条例を制定したことで、住民の皆さんから我が議会はすばらしいと評価を得ている議会があるのでしょうか。



そもそも議会として議員として、責任ある行動及び活動をしていれば、このような条例は必要なく、逆に無責任な議会や議員を縛るために条例を制定したとの見方にも繋がります。

いずれにしても、連合推薦の議員は各議会において模範となる議員であり続ける必要があると思います。そして、それが影響力となり議会の主導権を握ることで政策の実現、さらには各構成組織組合員及び家族を含めた幸せに結びつくものと考えます。

過労死ゼロ 11月は「過労死等防止啓発月間」